

平成 26 年度事業報告書

平成 27 年 5 月 25 日
公益社団法人日本左官会議

1 概況

日本左官会議は、平成 24 年 6 月 21 日、一般社団法人として認可され、平成 25 年 3 月 1 日には、公益社団法人として認可された。平成 26 年度は公益社団法人としての 2 年目となった。

【定款に定める目的】

この法人は、太古から未来へと永続する土とともに生きる思想、そして高度で確かな左官技能を広め、そのことをもってわが国の建築文化及び職人文化の発展に寄与し、人々の健康で楽しく自由な住環境・生活環境の整備に貢献し、この国の風景を、各地方風土にふさわしく、人と自然がともにつくりあげる美しい風景へと改善していくことに貢献し、また建築・土木の分野において、環境に負荷を与えず自然と共生する柔軟で合理的な発想に基づく技術を、伝統に学びつつも新しく創出していくことを目的とします。

【定款に定める事業】

- ① 確かな左官技能と左官文化を伝承・普及・発展させていくための事業（講座、セミナー、シンポジウム、学術集会、研究会、イベント、展示会、出版などを含む）
- ② 若手職人や指導者を研修・育成する事業、及び研修・育成事業をおこなう他の団体を支援する事業（研修会、技術講習会、技術者の派遣などを含む）
- ③ 国内・外の土や左官技術、また自然素材に関する情報や材料を収集し、分析し、保存し、データアーカイブを制作し、提供する事業
- ④ 左官技術を中心にして、自然と共生する建築・土木の技術を調査・研究・開発し、提案する事業、また実際の現場に即して立案・設計し、工事の実際施工を請け負う事業（助言、指導、コンサルタント事業を含む）
- ⑤ 建築関連法案を研究し、左官の技術と左官文化、ひいてはわが国固有の建築文化や職人文化を守り、あるいはこれを再構築・発展させるための提案や提言をおこなう事業
- ⑥ 伝統的建築物の修復・保全に関して、相談を受け、実現方法を立案・設計する事業、また工事の実際施工を請け負う事業、そして、修復・保全のために寄付を集めるなどの付帯する業務
- ⑦ 土をよく知るための体験的・情操教育的事業（体験会、体験教室、観察会、見学会など、またその指導を含む）
- ⑧ 研究・開発の拠点となり、また多くの人々が左官本位の建築や左官棟梁による建設現場や研究・開発の成果を見学し、宿泊して体験してもらえるような小規模な施設もしくは施設群を建設する事業、またその施設あるいは施設群を運営する事業
- ⑨ 土と左官に関する国際交流事業（技術者・研究者の海外への派遣、国際的情報交換、国際的催し物の主催や協力などを含む）
- ⑩ この他この法人の目的を達するために必要な事業、及び付帯する業務のすべて

2 すべての事業を、日本国内全域及び事業によっては海外において、おこないます。

【会員の状況】

名誉会員 2 名 顧問会員 8 名 正会員 23 名 準会員 17 名
支援会員 39 名 賛助会員 6 社 計 95 名・団体 (平成 27 年 4 月 25 日現在)

【役員などに関する事項】

| | | |
|------|------|-----------|
| 議長 | 原田進 | 原田左研 |
| 副議長 | 小林隆男 | 江州左官土舟 |
| 副議長 | 挾土秀平 | 職人社秀平組 |
| 総務理事 | 宇野勇治 | 宇野総合計画事務所 |
| 事務局長 | 多田君枝 | アイシオール |
| 理事 | 川口正樹 | 川口左官 |
| 理事 | 小沼充 | 小沼工業 |
| 理事 | 今野等 | 今野左官店 |
| 理事 | 豊永郁代 | アイシオール |
| 理事 | 西川和也 | 工房カズ |
| 理事 | 松木憲司 | 蒼築舎 |
| 理事 | 山本忠和 | 山本工業所 |
| 監事 | 吉村浩志 | |

すべて非常勤

2 事業期間

平成 26 年 3 月 1 日～平成 27 年 2 月 28 日

3 事業の状況

見学会シリーズ「日本の壁をみる」3 回目が行われた。初年度から取りかかっている唐獅子土蔵プロジェクトも前進した。「大江戸左官祭り其の弐」ではふたつのセミナーを主催し、土壁や土蔵に関心をもつ、設計者や研究者、一般の方たちと交流することができた。

【シリーズ 日本の壁をみる】

5 月 11 日、遠山記念館で「第 3 回 日本の壁をみる」を実施。定員以上の申込みをいただき、断らざるを得ない方もいたほどだった。当日は 56 名が参加。講師は顧問会員の左官の久住章氏で、人造石研ぎ出しの玄関土間、廊下や便所の天津磨き、西棟 7 畳間の大坂土の壁など、それぞれの壁や床がどのような材料や技法でつくられているのか、詳しく解説した。遠山邸は昭和 11 年の竣工だが、当時の社会状況や旦那衆と職人の関係が見えてくるのも興味深かった。

【唐獅子土蔵プロジェクト】

日本左官会議発足以来継続しているプロジェクト。唐獅子土蔵とは、岩手県一関市花泉町に残る、屋根の上に唐獅子を載せた土蔵群である。明治末期、気仙郡米崎村の左官・吉田春治の手によってつくられ、構成、造形、施工において日本の土蔵建築の最高峰だが、東日本大震災により被災した。これらを保存修復し、往事の技術を研究すると共に後世に伝えようという趣旨のプロジェクトである。日本ナショナルトラストから「東日本大震災 自然・文化遺産復興支援プロジェクト」として助成金（250万円）交付が決定していた事業は、平成26年6月30日まで期間の延長を願い出て承認され、期日までの作業分を報告して、平成27年1月30日に精算した。

平成26年までは、以下の作業を行った。まず、千葉家の唐獅子土蔵。足場をかけて近くで見るとその傷みは激しく、とくに中塗りがぼろぼろなのは想像以上で、どう手をつけたらいいのか、正直恐れを感じるほどだった。剥落しそうな部材を慎重にはずして掃除し、近くにコンテナハウスを建てて運搬・保存。落ちた部材は集め、清掃を施し保存。修復できる周辺部分は修復した。また、さらなる落下が起きないように、ボルトで留めたり、受けをつくるなどの作業を行った。もうひとつ、やはり吉田春治の手による加瀬谷家の唐獅子土蔵は、手法や壁の内部を研究し、地震により大きく飛び出していた石組みの修復も行った。

【大江戸左官祭り 其之貳セミナー】

11月13～15日には、晴海トリトンスクエアで「大江戸左官祭り」が開催され、二日間に渡って、日本左官会議主催のセミナーを実施した。15日は「小舞土壁の長所短所を解明する」と題し、早稲田大学建築学科助手で土壁の実験を重ねている山田宮土理さんがその成果を発表、日本の左官の第一人者の久住章さんが自らの経験と照らし合わせて、知見を述べた。

16日は「土蔵はもはや、無用の長物だろうか」と題した二部構成で行われた。第一部の「東北・被災土蔵を追って」は、東日本大震災以降、津波や大火によって多くが失われた中、土蔵だけが残っている風景を目にしたことをきっかけに、壊されることが決定してしまった土蔵を実測データや写真で記録を残している建築家の渡邊義孝さんが講演。「土蔵はその土地の土、石、瓦などを用いた伝統技法の集積であり、『イエ』にとって特別な意味をもつ『記憶装置』のようなもの」と語り、共感を集めた。第二部は「輪島の土蔵再生から得たもの」として、元NPO法人輪島土蔵文化研究会理事長の水野雅男さん、左官職人の竹本茂之さん、石川県奥能登土木総合事務所の表俊博さんをパネラーに、2007年の能登半島地震で多くの土蔵が壊されていくなか、7棟を改修した体験談を披露した。輪島は漆器の産地であり、土蔵は漆職人にとっては作業や漆器の保管場所として、あるいは酒蔵として、なくてはならないものであった。災害のたびに土蔵は無用の倉庫として壊されているが、じつは土蔵がなくなっていくことは日本が培ってきた、ひとつの文化が消失することである。輪島の土蔵再生は、700～800名のボランティアが関わり、左官職人の研修の場ともなった。伝統技法の継承は単なる保全ではなく、多くの意味があるということが具体的に示された。

ふたつのセミナーには、設計者や左官、古い建築に興味がある人たちが計80名ほど集まった。15日には、小舞掻きの実演も行われ、大人気となった。左官に関心のある方は一般的には決して多いとはいえないが、それだけに来場者たちは知識を得たり、活動をすることに対して非常に熱心だった。セミナーは、横のつながりをつくることにも大いに役立ったといえるだろう。

4 理事会の開催状況

当該事業期間中、下記の通り、理事会を開催した。

4月30日 理事8名と監事の出席により、理事会を主たる事務所で開催。平成25年度事業報告書、第2期決算報告書を承認。5月の総会の開催を決議。

7月3日 理事9名の出席により、理事会を主たる事務所で開催。総務理事、木村謙一の退会に伴い、理事・宇野勇治の総務理事新任を全員一致で決議。

2月25日 理事10名と監事の出席により、理事会を主たる事務所で開催。平成27年度事業計画書と、平成27年度収支予算書を承認。

以上